

登別中学校

第1回学校適正配置に関する地区別検討委員会議事録

日時 令和3年10月6日（水）18時00分～20時00分

会場 登別市婦人センター講堂（2F）

○事務局 時間となりましたので、これより登別中学校区「第1回学校適正配置に関する地区別検討委員会」を開催いたします。本来は会長が地区別検討委員会の議事進行を行うところではありますが、会長が選出されるまでの間は、事務局で進行を行わせていただきます。

議事に入る前に、本日お集まりの皆さんをご紹介しますと思います。事務局から順番にお名前をご紹介しますと思います。その場で簡単にご挨拶をいただければと思います。

それではご着席の順で紹介させていただきます（委員を順次紹介）。

（委員紹介後）それではさっそくお配りした会議次第に基づき議事を進めさせていただきますが、議事に入る前に、この委員会の位置付けや趣旨について若干説明させていただきます。

教育委員会では、新たに「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」を策定し、今後35年間における市内の小中学校の配置のあり方をお示ししました（グランドデザインの説明については省略）。

登別中学校については、令和3年度から7年度までを期間とする第1期中に、幌別中学校と統合することを想定しましたが、本地区別検討委員会は、指針における統合の想定を踏まえて、地域として、登別中学校の今後のあり方をどう考えるのか、学校統合に関しどう考えるのか、その是非について協議するため、保護者や地域住民有志の皆様により設置されるものです。

本日に至るまでの間は、我々教育委員会が保護者の皆様、地域の皆様とお話し

をしながら調整を行ってきましたが、教育委員会としては、本委員会の協議内容を踏まえ、学校設置者として、登別中学校と幌別中学校の統合の是非に関し最終的な判断を行いたいと考えております。そのためにも、本日お集まりの皆様にはぜひ積極的な議論をお願いしたいと思います。

なお、皆様のお手元に本地区別検討委員会の設置要綱をお配りしておりますので後ほど目を通していただければと思います。また、委員会の事務局は教育委員会で務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、会議次第にしたがって進めさせていただきます。会議次第2は「教育長あいさつ」です。保護者や地域住民有志の皆様による協議を始めるにあたり、教育長よりご挨拶させていただきます。教育長お願いいたします。

○教育長 お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。また、コロナ禍という大変厳しい状況の中、学校・家庭・地域が一丸となり、子ども達の学びが継続できるようお力添えをいただいていることにお礼を申し上げます。さて、登別市教育委員会では、本年8月、「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」を策定し、今後35年間における学校配置のあり方をお示ししました。登別中学校については、令和3年度から7年度までの間に、近隣校である幌別中学校との統合を想定しましたが、これはあくまで生徒数の推計に基づき、学校規模の目安などを参考に考えた想定に過ぎません。どのような形で登別地区に暮らす子どもたちの教育環境を維持していくかは、教育委員会が一方的に決するものではなく、保護者の皆様、地域の皆様のご意見を伺いながら、対話を通じて決めていくべきものと考えております。本日は、教育委員会が示した統合の想定を踏まえ、地域として、登別中学校の統合に関しどう考えるのか、その是非について協議するための場を設けさせていただきました。今後は、保護者や地域住民有志の皆様による委員会として、教育委員会が示した統合の想定を踏まえながらも、自由に議論いただければと思います。教育委員会といたしましては、皆様の議論を事務局としてサポートしつつ、委員会としての意見がまとめられた際には、その意見を受け止め、学校設置者として責任を持って登別中学校の統合に関し判断させていただきたいと考えております。それでは

本日以降、長丁場の委員会となるかもしれませんが、積極的な議論をよろしくお願いたします。

○事務局 教育長はここで退席させていただきます。

(教育長退席)

○事務局 次に会議次第3は「会長及び副会長の選出」についてです。お手元にお配りしている設置要綱にもありますとおり、委員会には会長1人と副会長2人を置くこととしておりますので、会長及び副会長の選出を行いたいと思います。委員の皆様から推薦等がありますでしょうか？

○委員 事務局に何か案はありませんでしょうか？

○事務局 事務局案といたしましては、会長は登別地区連合町内会会長の中川委員、副会長は登別中学校PTA会長の飯尾委員と登別小学校PTA会長の勝間委員にお引き受けいただければと思いますがいかがでしょうか？

(異議なしの声あり)

○事務局 異議なしの声がありましたので、会長は中川さん、副会長は飯尾さんと勝間さんに決定いたしました。三人を代表して、会長の中川さんより一言ご挨拶をいただきたいと思います。中川会長、お願いたします。

○中川会長 ただいま検討委員会の会長に選出された中川でございます。会議をスムーズに進めたいと思いますので、よろしくお願いたします。少し自己紹介させていただきますと、私はこの地で生まれ、今日まで長きにわたってこの地で生活しております。今日お集りの委員の方々には、私と同じようにこの地で生まれ育った方、新たにこの地区に引っ越してこられた方、様々な方がいるかと思いますが、それ

それぞれのお立場から意見を聞かせていただければと思っております。

今回の委員会は、登別市教育委員会の作成したグランドデザインにおいて、登別中学校に関して、令和7年度までに幌別中学校との統合が想定されたということをお集めしたものです。子どもの数の減少は登別地区だけではなく、登別全体の問題でありまして、教育委員会が作成したグランドデザインの中でも、わが登別中学校に限らず、市内全域の多くの学校について、将来的な統合が想定されている状況です。そうした意味では、全市的な広い視点をもって議論しなければならない部分がある一方で、やはり地域としては、登別中学校は登別小学校と並び、この地区の義務教育の一方の核でもあり、慎重な議論が必要と思っております。また、学校はまちづくりの中心としての役割もありますので、そういった意味でも慎重な議論が必要と考えております。いずれにしても、全市的な視点を持ちながらも、保護者の皆さん、地域の皆さんが納得できるよう議論を重ねることが重要でなかろうかと思っております。振り返りますと、登別中学校は昭和22年5月に開校になり、平成16年4月1日には登別温泉中学校と統合いたしました。この間、5,300人以上の子どもたちを送り出し、同窓生は日本国内に留まらず世界で活躍しております。検討委員会の皆さんには、登別中学校の今後のあり方について議論を重ねてもらうこととなりますが、中学校の歴史を考えたとしても、我々非常に重要な役目を負っているものと考えております。本日を皮切りに少し息の長い議論になるかと思いますが、皆様方の忌憚のないご意見をいただきながら、検討委員会としての結論をまとめていければと思っておりますので、皆様のご協力をお願いしまして、会長としての挨拶とさせていただきます。

○事務局 それでは会長、副会長が決定いたしましたので、今後の議事進行につきましては、中川会長にお願いしたいと思います。中川会長、よろしく願いいたします。

○中川会長 それでは会議次第に基づき進めさせていただきます。会議次第4は「地区別検討委員の進め方について」です。この委員会では、今後の登別中学校のあり方、教育委員会がグランドデザインの中で示した幌別中学校との統合の是非に関し協議することとなりますが、学校が地域で果たす役割は多岐にわたり、統合の議

論についても進め方に工夫が必要と感じております。そこで、今後の本委員会における議論のあり方、進め方に関し事務局より説明をお願いします。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○中川会長 事務局より委員会の進め方について説明いたしました。要約しますと、まずは子どもたちの教育環境を確保する観点から統合自体の必要性を議論し、その後、仮に統合するとしても様々な課題が想像されますので、それら課題について、教育上の課題、まちづくりの課題に分けて検証を行いながら、本委員会として統合の是非に関し議論をまとめていくということかと思えます。この進め方について、委員の皆さんから質問、ご意見などはありませんでしょうか？

○委員 教育委員会の立場で資料を出されるというのはわかりますが、まちづくりの視点で考えれば、登別地区の基本構想があり、その中で人口の見通しやまちづくりの方向性が示されているものと思えますので、そうした話を踏まえた上で議論を進めるべきと思うのですが。

○事務局 委員のご意見は、議論の前段で、総合計画等における登別地区の位置付けや人口推移などを踏まえて議論を始めたいというような話かと思えます。先ほどご説明したように、教育的観点からの議論を終えた後に、市長部局の企画部門にも参加してもらい、まちづくりの観点からの議論を行っていただければと考えております。まずは教育的な観点から議論を行い、その後にまちづくりの観点から議論を行う際には、委員からお話があったような、登別市全体また登別地区の人口の今後の見通し、登別地区のまちづくりの説明なども踏まえながら、議論を行っていくことになろうかと思えます。

○委員 教育環境の話をするのであれば、まずは生徒数の基準をどう考えるかという話をしなければならないと思います。国の指針で人数が示されているというような説明もありましたが、国の考え方ではなく、登別市として何人がいいのかという

議論をしなければならないのではないか。国の指針をベースに構想を作るのではなく、この地区の特性を踏まえて議論を行わなければならないのではないかと思いますが。

○事務局 先ほど委員からもありましたとおり、国が学校規模の目安を手引きという形で示しており、今回お示したグランドデザインも、これを基本的な考え方のひとつとして検討いたしました。ただ、委員からお話があったとおり、地域としてどういった教育のあり方が良いのかという視点は非常に重要ですので、是非そういったお話もしていただければと思っております。

○委員 インフラ、社会構造の観点でお話をさせていただきますが、登別温泉は雇用の問題を抱えております。現状でも人集めは大変な状況ですが、さらに中学校が無くなれば、ますます働き盛りの人間を集めるのは難しくなります。実際、温泉小学校が無くなった時にも影響が出ていますので、教育の観点からだけではなく、社会インフラという観点からも考えないといけないということはこの場で述べておかなければならないと思います。

○委員 教育環境の議論をする時に具体的に何を考えていけばいいのか。仮に統合となった時に、教育委員会に何を考えてもらえばいいのか。地域との結びつき、通学方法や通学時間のこと、様々な課題があるかと思えます。例えば、教育委員会としては、教育環境に関するテーマとしてどのような項目を想定していこうと考えているのか。具体的なテーマに絞ることにより議論が深まるのではと思います。

○事務局 このパートでは議論の進め方の話をしているので、具体的な話はさせていただいてはおりませんが、この後、登別中学校の教育の現場がどうなっているのか、部活動がどういう状況にあるのか、あるいはクラスの編成はどうなっているのか、そういった具体的な説明をさせていただきたいと思っております。また、統合にあたっての課題検証を行う際には、通学距離や通学時間といった具体的なテーマを挙げながら具体的な議論をしていただきたいと思います。

また、先ほど議論の進め方の部分で複数のご意見をいただきました。意見のひとつとしては、学校自体がまちづくりのひとつのパーツだろうと、そう考えたら、登別市全体の人口、登別地区の人口がどのように推移していくのか、登別地区についてどのようなまちづくりをしていくのか、そういった話をした後でなければ、学校の話は出来ないのではないかというようなご指摘だったかと思います。我々としても、学校は子どもたちの学びの場であると同時に、まちづくりの中心としての役割を担っている点は理解しておりますが、ただ、先ほど申し上げましたとおり、学校は多様な側面をもっておりますので、やはり整理して議論しないと議論自体が輻輳してしまうのではないかと懸念しております。このため、まずは教育環境の観点、子どもたちがどういう環境に置かれているのかという話をした上で、その後、まちづくりの話、例えば、登別地区の人口の推移をどのように見ているのか、学校がなくなることによってこの地域にどういう影響が出てくるのか、まちづくりの中で登別中学校はどう位置付けられてきたのかといった議論をしていかなければならないと考えておりますし、その際には企画部門の人間にも全面に出てもらわなければならないと思っております。また、もうひとつの意見としては、学校は雇用を確保していく上でも非常に重要だと、そのようなお話だったと思います。これもやはりまちづくりの中で学校がどういう役割を果たしていくのかというようなことだと思いますので、そういった議論も是非、まちづくりの観点から議論を行う中で提起していただければと思っております。

○中川会長 よろしいでしょうか。それでは続きまして会議次第5は「協議事項」となります。さきほどの進め方にもあったとおり、まずは「教育環境の観点から見た学校統合の必要性について」協議を行います。事務局の方で協議資料を用意しているとのことですので、登別中学校の現状と今後の見通しについて説明を受けたいと思います。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○中川会長 事務局より、登別中学校の現状と今後の見通し、統合の必要性について説明が

ありました。まずはその内容について、委員の皆さんから質問や確認事項はありませんでしょうか？

○委員 市の教育委員会で決められる範囲というのはどこまでなのでしょう。というのも、部活動に関してですが、他の地域では混合チームで大会に参加するという話も聞いたことがあります。そう考えた時に、部活動が無ければ、部活動だけ違う学校と共同でやるとか、そういうことが可能だと思うのですが、その可否は国で決められているのか、教育委員会の考え方次第で可能なのか。また、教員の配置数についても、国の方針で決められてしまうものなのか、教育委員会の考え方を変えることが出来るものなのか、その点について説明願いたいと思います。

○事務局 部活動の設置については、職員の配置数、部活動の指導が出来る専門性を持った教員がどれくらいいるのかといった個々の事情が関係してきますので、基本的には各学校で判断することになります。その上で、ご指摘のあった合同チームについては、それぞれの状況、部活動を希望する生徒数や専門性を持った教員の配置数などを勘案しながら、学校同士の話し合いの中で決めていくこととなります。さらに、文部科学省は、部活動自体を地域の活動に移行していく方向性を示しておりまして、これに関しては、市全体で考える必要がありますので、教育委員会と学校が協議を行いながら、本市での方向性を見出していくこととなります。次に教員の配置数に関してですが、小中学校の教員は都道府県が各学校に配置することになっており、その配置数については、各学校の学級数で決まることとなりますので、基本的には各市町村の教育委員会の考え方で決められるものではありません。

○委員 登別中学校の場合、温泉中学校から引き継いでいる伝統芸能があります。この熊舞については、1年生から3年生まで、在校期間を通じて取り組んでいるわけですが、統合した場合、伝統芸能の取扱いはどうなるのでしょうか。統合先の中学校で取組が継続されるのか、どのようになるのでしょうか。

○事務局 熊舞については、子どもたちの郷土への理解を深めるといった教育的視点に加えて、地域で育んできた文化を学校活動の中で継承していくという視点も持って継続してきたところです。仮に統合となる場合には、指導に当たっていただいている団体の方に、今後ご協力いただけるのか意見を伺いながら、統合先の学校も含め、継承の可能性に関し検討していかねばならないと思っております。まさに統合にあたっての課題になろうかと思しますので、委員の皆さんには、テーマのひとつとして是非議論いただきたいと考えております。

○中川会長 よろしいでしょうか。それでは次に進みますが、今回、教育委員会で、登別中学校の「良さ」や「課題」、学校統合に対する考えなどに関し、保護者の皆さんにアンケートを行ったということで、その結果がまとまっているようですので、協議の参考として事務局から説明をお願いします。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○中川会長 私から確認ですが、回収率51.7%というと大体何人くらいの方が回答されたことになりますか？

○事務局 詳しい数字は手元にありませんが、全校生徒87人に対し回収率51.7%ですので、回答数は40人強というところかと思えます。

○中川会長 わかりました。アンケートの結果に関し、委員の皆さんから質問、ご意見はありませんでしょうか？

○委員 実際に子どもが中学校に通っている親の立場として、部活の選択肢の少なさといった面については、小規模化のデメリットを感じますが、実際、子ども達はコロポックル、登別小学校、登別中学校と進学し、この地域で地域の方と触れ合ったりすることで、様々な考え方を学ぶ機会もあり、非常に良い面があると感じています。ただ、やはり小規模で人間関係が固定化しやすいということに関しては、

人間関係がうまくいかず、辛い思いをしている子もいるということは聞いているので、個人的な思いとは別に、子どもたちにとって本当に良い環境を考えていければいいなと思っております。ただ、私個人としては、小規模校で育つと、高校に進学した時に困るのではないかとということがよく言われますが、私の子どもの例でいえば、中学校の先生が高校進学後を想定して指導をしてくれたこともあって、心配した程の困難はありませんでした。私は保護者の立場なので、教育環境の話が中心になるものと思って参加しましたが、学校統合については、雇用への影響だったり、まちづくりの話だったりと様々な観点からの議論があるということをあらためて感じています。そういった様々な視点からの話し合いを行う中で、子どもたちにとって良い環境を作ることができればと思っております。

○委員 私の子どもは一番下がコロポックルに通っているんですけども、生徒数の減少や学校統合に関しては、就学前の子どもを持つ親として色々と考えている部分があります。今回のアンケートについては、中学校の保護者が対象ということなんですけれども、実際、私たちのように就学前の子どもを持つ保護者、まさに学校統合の話になった時に影響が生じる年代の子どもを持つ親がどう思っているのか気になりました。アンケートの対象を就学前の子どもを持つ保護者とした場合には、小規模化の良さとか課題に関し、どのような割合で結果が出てくるのか気になったところです。

○委員 いま私自身は子育ての最中ではありますが、教育委員会からこの委員会を立ち上げる話をいただいた時に思ったのはどういう組織作りになるのかということを考えていました。例えば、我々子育て中の委員がこちら側に並び、町内会を中心とした諸先輩の皆様が逆側に並ぶような形になっておりますが、我々子育ての最中にある側としては、小学校や中学校、コロポックルの森の保護者の意見を、もう少し発言しやすい環境の中で広く掬い上げていくことが必要ではないかと思えます。先ほど、雇用への影響の話などがありましたが、確かに地域から学校が無くなることにより、この地区の企業が働く場として敬遠される部分はあろうかと思えますし、私たち世代が子どもたちに何を残せるかというようなことも思いなが

ら聞いておりました。そういった意味では、私たち世代がもう少し意見を言いやすい環境、進め方を考えなければならないのかなと思いました。また、まちづくりの話になると、教育委員会というよりは総務部の所管になると思いますので、テーマによっては市からの参加者を替えていくことなども考えなければならないのではないかと思います。

○中川会長 委員がおっしゃるように長い視点で考える必要があると思います。そうしなければ、子どもたちが成長した後に振り返って後悔することも出てくると思います。また、登別中学校区は地域が広いので、カルルス地区、登別温泉地区、富浦地区まで広範囲に考える必要があります。広範囲に考えながら長い視点で考える必要がある。例えば室蘭市の例をとると、八丁平では子どもの数が増えて学校施設を増設するというので、やはり現時点での推計だけでは考えられない部分はあると思いますので、委員の皆さんには様々な立場から忌憚りの無い意見をいただければと思います。

○委 員 ここまでは親の立場、住民の立場、地域の立場から子ども達の教育環境はどうかということをお話してきたんですけども、子どもたちの生の声を聞くことも大事ではないでしょうか。可能かどうかはわかりませんが、現役の中学3年生や卒業生に話を聞く場を設けてみてはどうかと思いますが、いかがでしょうか？

○中川会長 社会福祉協議会で中学生との意見交換を行っておりまして、まちづくりに関し、とても良い意見を聞かせてもらっています。登別中学校のあり方を考える上では現役中学生の声は重要ですので、この委員会でもそのような機会が設けられないか事務局と相談してみたいと思います。

○委 員 保護者アンケートについては、もう少し工夫が必要だったのかなと思います。このアンケートだと統合前提でそのメリットとデメリットを聞く内容になっていると思います。そうではなくて、大きい学校に行けばこんな良さがある、一方こんなデメリットがあるといった聞き方をすべきかと思います。

○委員 このアンケートについては、回収率が50%程度と非常に低いので、その内容を信用して議論していいのか疑問だと思います。

○事務局 あくまで任意のアンケートですので強制できないという事情があり、回収率を上げられなかったのは残念でありましたが、一つの参考として情報提供させていただきました。

○委員 今後このようなアンケートを行う時はこの委員会に情報提供していただき、議論を行うようにしていただきたいと思います。

○委員 このアンケートは教育委員会が行ったアンケートという位置付けですよね？

○事務局 その通りです。これはあくまで教育委員会が行ったアンケートになりますので、地区別検討委員会でアンケートを行うということであれば、委員の皆さんの議論に基づき質問項目を調整し、再度実施することになろうかと思っています。再度実施するかどうかも含めて、委員会の場で議論していただければと思います。

○委員 保護者アンケートについては、小学校、中学校の保護者を対象にしたアンケートをやってみてはどうかと思います。賛成とも反対とも言い難い複雑な部分があるかと思っていますので、是非保護者の皆さんの声を聞いてみたいと思います。

○事務局 中学校の保護者だけでなく、小学校の保護者にも意見を聞くべきですとか、あるいは現役中学生の声を聞くべきといった様々なご意見をいただきましたので、次回以降、どのような形で各方面の意見を掬い上げていくのか議論していただきたいと思います。事務局としては、委員の皆さんの議論に基づき準備、調整をさせていただきます。

○中川会長 本日皆さんから忌憚りの無い意見をいただきましたので、これを踏まえて次回以

降、アンケートなどの実施に関し具体的な議論をしていきたいと思ひます。事務局から今後の進め方についてお願ひします。

○事務局 本日委員の皆さんからいただいた意見を踏まえて、アンケートや在校生へのインタビューなどに関し、事務局で素案を作成しますので、次回の第2回会議では、これを基に具体的な議論をしていただければと思ひます。

○中川会長 それでは次回会議のスケジュールはどうなっていますか？

○事務局 会議につきましては、月1回程度を予定しております。ただ、1回目については、本来9月下旬に予定していたものが、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言の影響で10月にずれ込んだ関係から、10月はもう1回の開催を考えております。10月27日水曜日、時間は本日同様18時から、場所についても本日同様、婦人センター2階講堂を予定しております。具体的な内容に関しては、後日、事務局より連絡させていただきます。

○中川会長 事務局より次回日程について説明がありましたが、これに関し委員の皆さんから何かありませんでしょうか？

○委員 月1回程度の開催とのことですが、どれくらいの時期を目途に会としての結論を出すことを見込んでいるのでしょうか？

○事務局 先にお示ししたグランドデザインでは、登別中学校について、令和7年度までに幌別中学校と統合することを想定しました。仮にグランドデザイン通り令和7年4月の学校統合となれば、準備期間等を考えれば、令和4年の後半には、地区別検討委員会としての考え方がまとまっている必要があると思ひます。こうしたことを考えれば、統合の是非に関わらず、会としての結論をまとめる時期としては、来年のいま時期がひとつの目安になるかと考えております。

○中川会長　それではこれで「登別中学校 第1回学校適正配置に関する地区別検討委員会」を終了します。皆さん、長時間にわたりありがとうございました。